

第107回 全国高等学校野球選手権大会

2025年8月5日～8月22日（18日間）

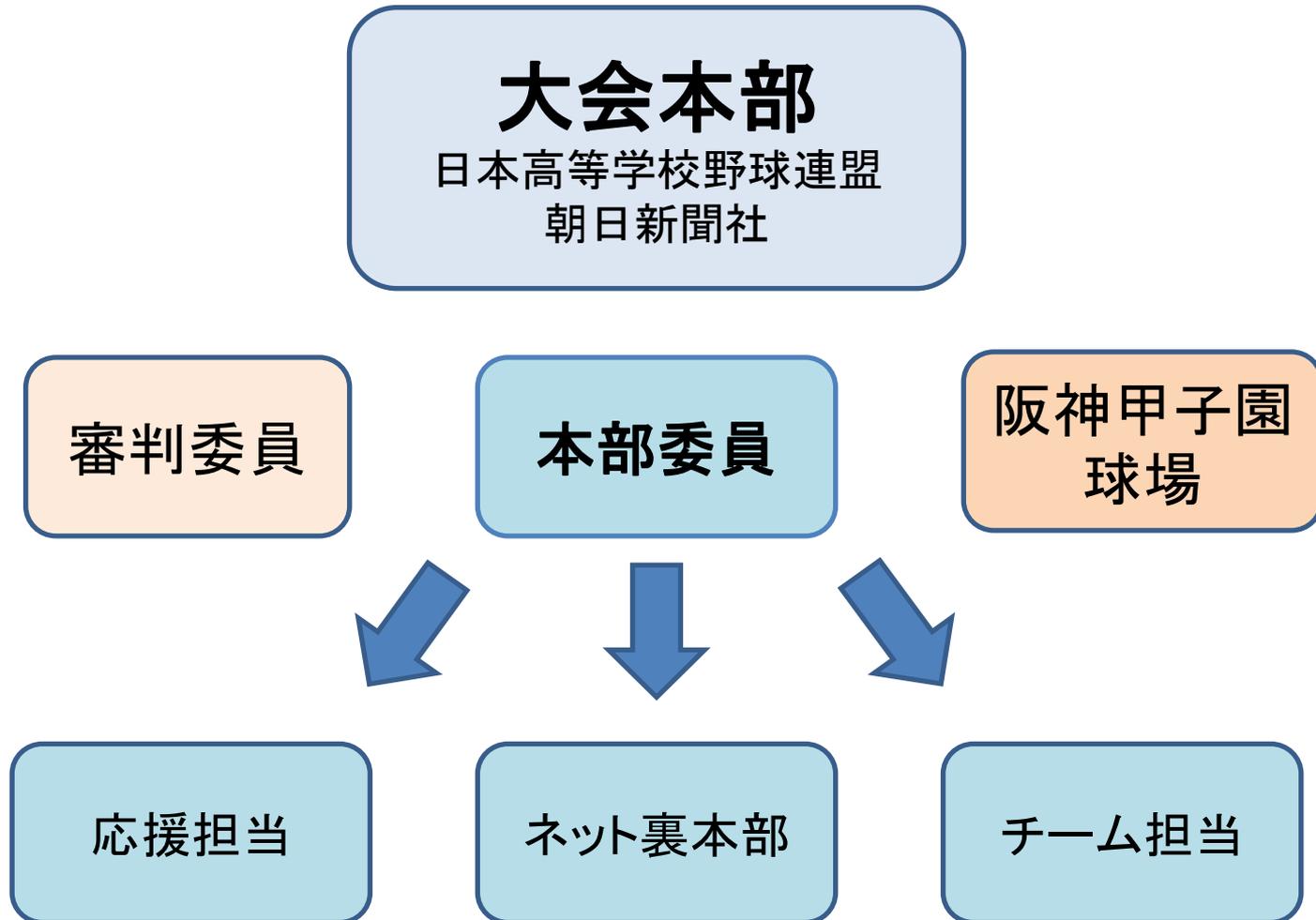
監督会議資料

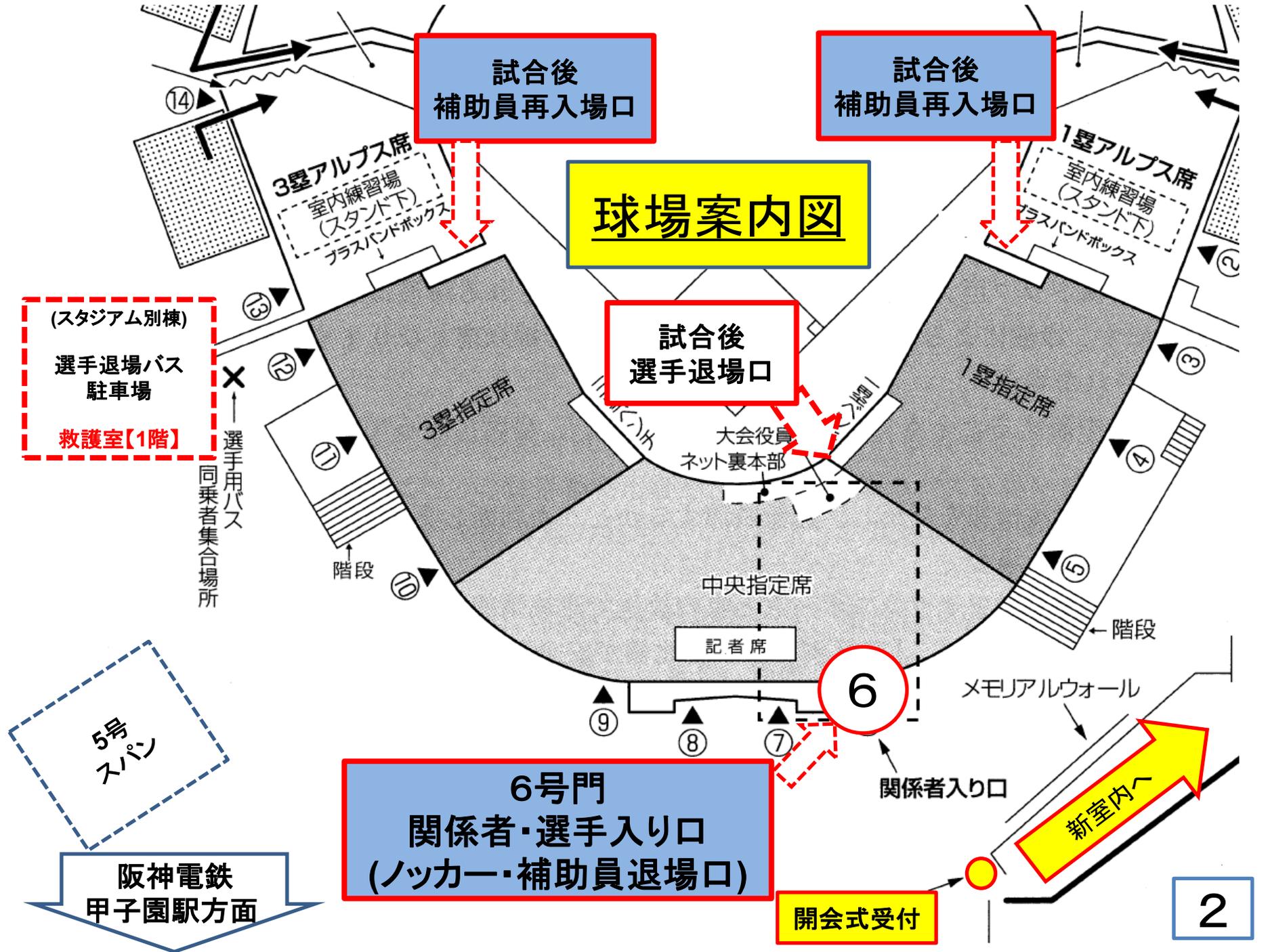
朝日新聞社

日本高等学校野球連盟

2025. 8. 3

運営組織図





試合後
補助員再入場口

試合後
補助員再入場口

球場案内図

試合後
選手退場口

(スタジアム別棟)
選手退場バス
駐車場
救護室【1階】

選手用バス
同乗者集合場所

6号門
関係者・選手入り口
(ノッカー・補助員退場口)

開会式受付

阪神電鉄
甲子園駅方面

2

新室内へ

試合開始予定時間

第1日（開会式・第1日）

開会式 16:00

第1試合 17:30

第2・3・5・6日

第1試合 8:00

第2試合 10:30

（13:45以降継続試合）

第3試合 16:15

第4試合 18:45

（22:00以降継続試合）

第4日

第1試合 8:00

第2試合 10:30

第7・8日

第1試合 8:00

第2試合 10:30

第3試合 13:00

第9日以降

第1試合 8:00

第2試合 10:30

第3試合 13:00

第4試合 15:30

準決勝

第1試合 8:00

第2試合 10:30

決勝戦

10:00

試合当日の確認・徹底事項

1. 各自の荷物は基本的に1個。(スパイク・アップシューズ含む)
2. ダッグアウト持ち込みは最小限に。(階段移動あり)
*水、スポーツドリンク[ポカリスエット]、経口補水液[OS1]、
氷は主催者が十分に準備。
3. 昼食、軽食、サプリメント、練習用具など。
4. 試合に必要なもの以外ダッグアウトへ持ち込み不可。
5. 試合用ユニフォームを着用、リボンを付け球場入り。
(責任教師はIDカードを忘れない事)
6. グラブの締め紐、グラブ表面の刺繍、打撃用手袋のマジック
テープ部の刺繍、サングラス等、用具の使用制限を遵守する。
7. スマートウォッチ、磁気ネックレス、念珠等にも注意。

試合当日の球場入り（1）

1. 本部委員の指示で降車。
2. 降車時にメンバー用紙を本部委員に提出。
＜メンバー用紙：配布資料参照＞
※**メンバー用紙は責任教師,監督が確認の上、署名**
→**正確に楷書で、筆圧は強く/ノック希望の有無記入**
注) 2戦日以降、責任教師はバス到着時に本部委員から大会本部
が作成する**投球数実績表**を受け取り、事前に確認し、
攻守決定時に持参。
3. 監督、主将、選手、練習補助員(以下補助員)5名、記録員、
ノッカー、責任教師の順で整列。
4. リボンの確認後、本部委員先導で用具を持って各チームの室内
練習場に移動。
※ リボン 配布⇒バス乗車時、左胸に付ける。
回収⇒室内練習場で責任教師が回収・保管。

試合当日の球場入り（2）

○大会 1 日目 【開幕試合】（別途指示あり）

1. 開会式開始予定時刻 2 時間前の14時までに球場へ到着。
2. リボン確認後、本部委員先導で、室内練習場へ移動。

室内練習場で使用しないものはダッグアウトに置くことは可能。

3. 本部委員の指示を受け、指定の時間まで室内で練習。

* 室内練習場以外では試合用ユニフォーム着用

* 地方大会優勝旗を忘れないように。

試合当日の球場入り（3）

○大会 2 日目以降 【第 1 試合】

1. 試合開始予定時刻 2 時間前までに球場へ到着。
2. リボン確認後、本部委員先導で、室内練習場へ移動。
室内練習場で使用しないものはダッグアウトに置くことは可能。
3. ノックに間に合うようにダッグアウトに戻る。

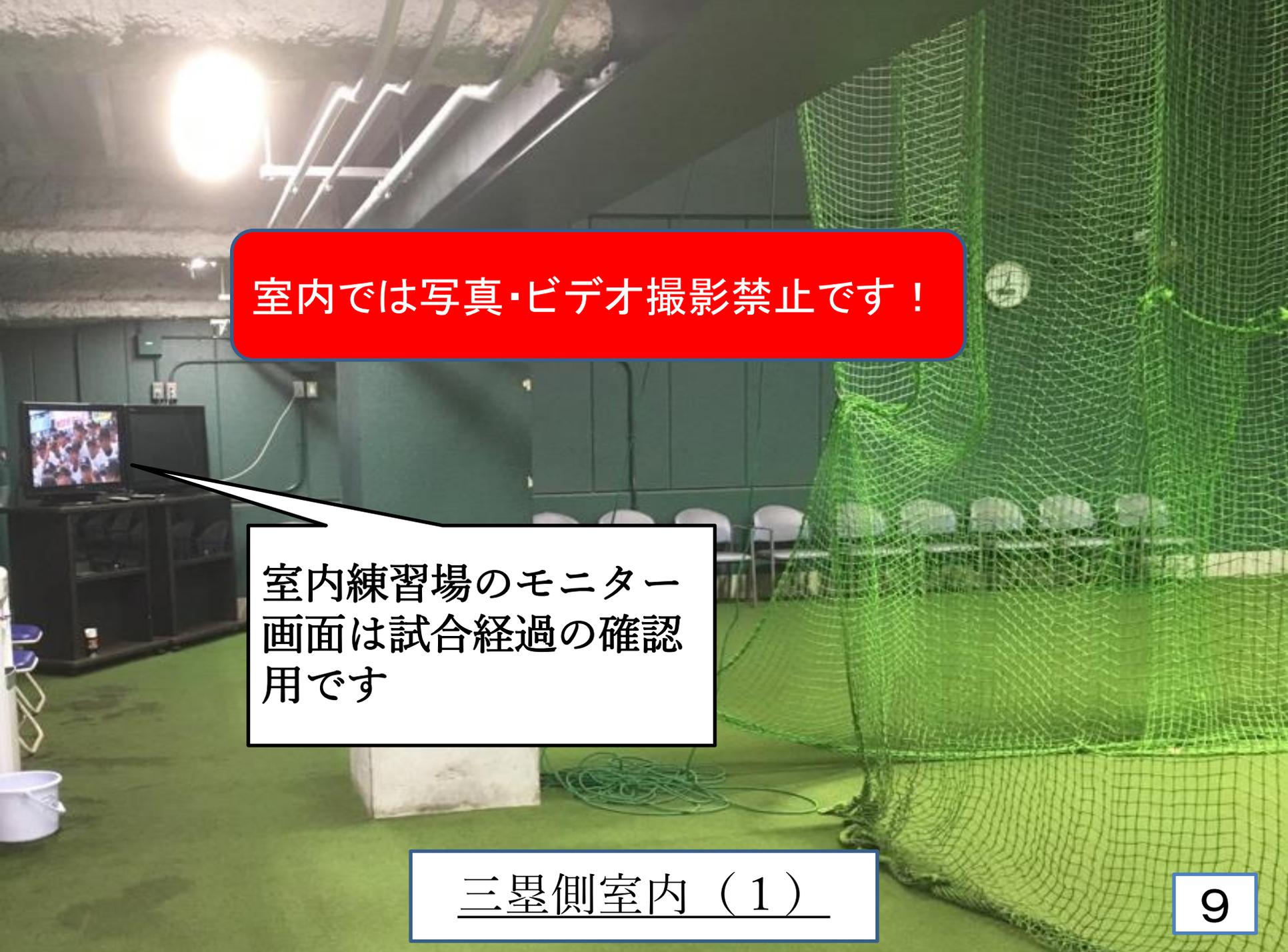
*** 室内練習場以外では試合用ユニフォーム着用**

【第 2 試合以降】

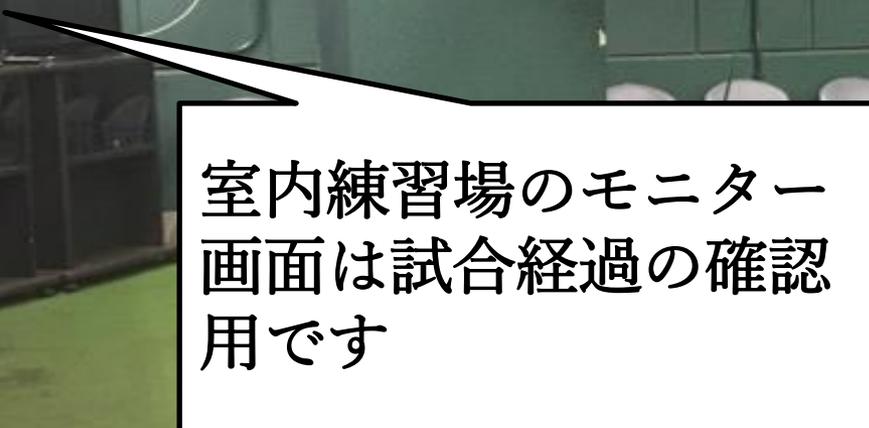
1. 自校試合開始予定時刻の 2 時間前までに球場へ到着。
本部委員の指示で移動。（指示があるまでバスからは降りない）
* 宿舎から徒歩移動の場合、チーム担当本部委員との合流は大会本部と相談
2. 早着の場合は、バスの中で待機、本部の指示に従う。

室内練習

1. 室内練習場から外出が必要な場合は、本部委員に申し出る。
2. 室内でのスパイク使用不可。但し、ブルペン使用時（バッティング投手含む）のみ使用可。（使用后、整備はしない）
3. 室内練習場でバッティング練習をする場合は、必ずヘッドギア（忘れないこと）を着用する。
4. ネットの開閉は行わない。（移動式防球ネットは可）
5. 室内練習場での服装は自由。飲食可。携帯電話の使用可。
6. 室内に補食（おにぎり・パン）あり。（詳細は別紙）
7. ゴミは本部委員の指示でゴミステーションに。
8. 水、スポーツドリンクのキャップに、背番号等を明記する。
9. 理学療法士による健康チェックあり。（テーピングなどの処置を希望する場合は、申し出る）
10. 室内練習場のみ喫煙場所があります。

An indoor sports facility with green artificial turf and green safety netting. A television monitor is visible on the left, displaying a group of people. A red banner with white text is overlaid on the top part of the image.

室内では写真・ビデオ撮影禁止です！

A white callout box with a black border and a pointer pointing towards the television monitor on the left side of the image.

室内練習場のモニター画面は試合経過の確認用です

三塁側室内（１）



三壘側室内（2）

バット検査・用具点検/ 監督への取材

○試合前バット検査・用具点検

第1試合・第3試合（二部制の時のみ）

バット検査(ダッグアウト裏) 用具点検(ダッグアウト前)

- ・ 試合開始予定45分前 後攻チーム
- ・ 試合開始予定30分前 先攻チーム

第2試合以降（共に室内練習場にて点検）

- ・ 試合開始予定2時間前 1塁側チーム
- ・ 試合開始予定1時間45分 3塁側チーム

* バットはメーカーごとに並べておく（木製バット含む）

* 用具点検：打者用ヘルメット、捕手用具(ファウルカップ含む)、リスト・エルボー・レッグガード、サングラス

○監督への取材 *開幕試合・決勝戦は別途指示あり

(全日程の第1試合、第2・3・5・6日の第3試合)

1塁側…試合開始予定の**80分前** 3塁側…試合開始予定の**70分前**

他：1塁側…前試合の**3回裏終了** 3塁側…**左記の10分後**

* 上記時間に1塁側(室内入り口内側)、3塁側(室内入り口外側の空きスペース)で実施(約5分、朝日新聞社が指示)

攻守決定（１）

○攻守の決定

第 1 日（開幕試合 = 15 : 00）

第 2 ・ 3 ・ 5 ・ 6 日（ 4 試合）

第 1 試合… 7 時00分（試合開始予定時刻の 1 時間前）

第 2 試合…前の試合の 5 回終了

第 3 試合…15時15分（試合開始予定時刻の 1 時間前）

第 4 試合…前の試合の 5 回終了

* 5 回表が終わったら本部委員とともに室内練習場から移動

第 4 ・ 7 日以降（ 2 ・ 3 ・ 4 試合）

第 1 試合… 7 時00分（試合開始時刻の 1 時間前）

第 2 試合以降…前の試合の 5 回終了

決 勝 = 別 途

攻守決定（２）

1. 出席者：責任教師・主将（本部委員が引率）

<注意事項>

次の選手及び用具等は球審に確認してもらう。

⇒確認後、テーピングの選手は室内練習場に戻る。

(1)テーピング選手

*見える場所にテーピングをしている選手のみ

(2)マウスガード（同色は1個でよい）

2. 責任教師はメモ帳を持参、特に重要な事項は試合までに、必ずチームに伝える。

3. 2戦目以降、攻守決定時に本部及び両チームによる「投球実績表」の確認を行う。

ベンチ入り・試合準備（1）

1. 前の試合の終了までにスパイクに履き替える。
なお、自分のアップシューズはバッグに入れる。
（ノックをする後攻チームの捕手は、捕手ギアを着けておく）
2. 本部委員が誘導し、内野の取り合い（内野席とアルプス席の間の通路）から入場する。
3. 監督先頭で、選手2列、補助員（大きい荷物：ヘルメット 捕手用具等）、記録員、ノッカー、責任教師の順で入場。
4. 前の試合のチームがアルプス席へ挨拶後、駆け足でカメラマン席前へ移動。
5. カメラマン席前にバッグ類を置いて選手は人工芝（グリーンベルト）の上でアップ・キャッチボール。
6. 先発投手はブルペンへ。遠投はなし。（室内でネットスロー等で対処）
7. 補助員、責任教師はダッグアウトが空き次第、荷物を移動。
試合用具は前方に、選手の個人バッグは後方の席に載せる。

ベンチ入り・試合準備（２）

8. 後攻はシートロック後に荷物整理、先攻は相手のシートロック時に荷物を整理。
9. 空のケースなどは座席の下かダッグアウト裏へ。
10. ダッグアウト内での携帯電話、パソコンなどの通信機器（スマートウォッチ含む）の使用は禁止。
11. 女子部員の試合前・試合中のグラウンドでの活動については普段の練習で活動している範囲内で可能。
 - ①ノック時のボール渡し ②ボールパーソン
 - ③ノッカー 服装については「代表校の手引き参照」

(注) グラウンド内では必ず帽子・ヘルメットを被る

※ 全日程、第1試合（第2・3・5・6日は第3試合）のみ、
開始1時間前から外野芝生でのランニング（ダッシュ不可）キャッチ
ボール可能（アップシューズ使用）
<使用の可否については、本部委員から指示あり>

扇風機

イスの後ろ全面から冷気が出ます
(グラブ・荷物を置かないこと)

連盟のクーラー
ボックス

個人バッグ
はイスの下

注) 試合中、ラバー上にグラブ、
手、肘等を乗せない

黄色のラインに
足を乗せない

ここにスポットクーラー

一塁側ベンチ (1)

シートノック（希望制）（1）

1. シートノック **5分**以内。（場内アナウンスから5分間）
2. オーダー用紙にシートノックの実施の有無を記載する。
3. 最終確認は攻守決定の際に行う。
4. 補助員（**自校ヘルメット着用**）は1塁に限り、送球を受けることができる。*** 2・3塁は認められていない**
5. 背番号を付けている選手がノック補助を行う場合も必ずヘルメットを着用する。
6. 外野ノックはグリーンベルト(人工芝)から行う。（安全な位置から）
*** 返球は中間（ライト・レフト定位置くらい）に補助員とボールケース等を置いて集球する。**

シートノック（希望制）（2）

7. 観客への事故防止のため、ノックボールのスタンドインに注意。
（特に風の強い日は要注意）
8. 外野ノッカーの(クッションボール処理のための)外野ラバーへの直接ノックは不可。
9. 相手ノック時は、ブルペンのバッテリー以外、全員ダッグアウト内で待機をする。（指導者も含む）
10. ノック時、ファウル地域で整備車両によるグラウンド整備が行われているので接触に注意する。

試合前・試合中（1）

1. 両チームノック終了後、グラウンド整備中にアルプス席へ挨拶。
* ネット裏等には挨拶しない。
2. 相手チーム、観客がいる中での示威行為（デモンストレーション）は控える。必要な場合はダッグアウト裏、室内で行って試合に備える。
3. 試合中、過度なパフォーマンス（派手なガッツポーズや得点時のベンチ前ハイタッチなど）は控える。
4. 記録員は挨拶以外、試合中にダッグアウトから出ない。
* 試合中の円陣への参加も不可。
5. 試合中の投球練習およびブルペンは1組のみ。また、ブルペン含め、試合中のキャッチボールは縦列で行う。
（投手が投球動作に入ったら、必ず注視すること。）
6. 試合前、試合中のキャッチボールはグリーンベルト上で行う。
7. アンダーシャツ等の更衣をする場合はダッグアウト裏で行う。

試合前・試合中（2）

8. 原則、試合中の水分補給はファウル地域で行う。また、サプリメント等はダッグアウト内で摂取する。
9. 円陣を組む場合や、攻守交代時にはダッグアウト前のグリーンベルト（人工芝）から出ない。
10. アクシデント（負傷等）発生時、**審判の要請があるまで**責任教師・監督はダッグアウトから出ない。
11. 5回終了時に**8分間**の「**クーリングタイム**」（配布資料参照）あり。全員一度ダッグアウト裏へ入り、冷却と健康観察（責任教師）をする。**5分が経過した時点**からグリーンベルトでのランニングやキャッチボール、素振りなど準備可能。
* 6回から登板予定のバッテリーは、**3分を経過した時点からの準備⇒ブルペン**）可能。

◎試合開始、終了時の礼と発声を両チームでしっかり合わせる。

◎試合中、攻守交代は迅速に。全力疾走を心掛ける。

補助員・ノッカー

1. ノック終了後、ボールパーソン3名は「ボールパーソン用ヘルメット」を被り、1塁側ダッグアウト下で審判委員から要領の説明を受ける。(初戦のみ) *配布資料参照
2. ノック終了後、ノッカー及び補助員2名は試合に不要な荷物を持って、本部委員の指示により、1塁側グラウンド出入り口を通過して6号門から退場、アルプス席へ移動し観戦する。
3. 試合中はボールパーソンも適宜、水分補給に努めること。
4. 試合終了後、ノッカー及び補助員2名は、勝利チームの校歌、校旗掲揚が終り次第、アルプススタンド補助員再入場口より係員の指示に従ってグラウンドに入り、各ダッグアウト内の用具搬出の準備を行う。

審判規則委員会より（1）

● 甲子園球場グラウンドルール（H25.3改正）

(1) ボールがダッグアウト（一塁ダッグアウト横の通路を含む）前面に引いてある黄線を越えた場合はボールデッドである。

（プレイングフィールドに跳ね返ってもボールデッド）

(2) 本部席屋根の上に引いてある黄線を越えた場合はボールデッドである。

（プレイングフィールドに跳ね返ってもボールデッド）

(3) カメラマン席前面に引いてある黄線を越えた場合はボールデッドである。ただちにプレイングフィールドに跳ね返った場合もボールデッドである。



審判規則委員会より（２）

1.規則・マナー上特に注意すべき事項について

※参考-令和7年4月25日「甲子園から全国へ～第97回選抜高等学校野球大会」

9回換算試合時間：2時間06分

1. マナーについて

- (1)ベースコーチや打者走者が「セーフ」のジェスチャーをする行為。
- (2)自チームを鼓舞する（煽る）、過度なガッツポーズ。
- (3)打者が投球時に投手を幻惑する行為。

2. 規則に関する事項について

- (1)一塁へ向かう後半を走る際、ファウルラインの内側を走る行為。
【公認野球規則5.09(a)(11)】
- (2)投球を受けた捕手は速やかに投手に返球すること。また、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につくこと。
【公認野球規則 5.07 (c) (1) (2)】
- (3)牽制球の多投、投手板から軸足を外すだけの行為の多用。※後述

3. 試合進行について

攻守交代のスピード感や投手の投球テンポ等、全国の模範となる試合。

審判規則委員会より（3）

投手のけん制について

公認野球規則や今年度の周知徹底事項・重点指導事項には、以下の通り記されています。

〔公認野球規則6.02(a)(8)〕

（塁に走者がいる時は、次の場合ボークとなる）
投手が不必要に試合を遅延させた場合。

〔周知徹底事項 1-(2)〕

遅延行為と見なされる投手のけん制はしない。

（離塁していない走者へのけん制や、不必要と思われる複数回のけん制等）

〔重点指導事項 1-(3)〕

不要なけん制（軸足を外すだけの行為含む）を多投する行為

投手によるけん制が多用された試合は前述のみならず、全国大会や都道府県大会を問わず報告されております。

高校野球の試合のスムーズでスピーディな進行への取組や公認野球規則等に明記されている投手のけん制に対する規則の主旨をご理解下さい。

審判規則委員会より（４）

2.その他

(1)捕手のマニキュア使用

二部制を導入することにより、点灯試合が行われるので、投球時のサイン交換をスムーズに行う為に、捕手のマニキュア使用を一色に限り可能とする。

(2)木製バットの使用時について

木製バットの使用時に、特に守備側選手は、折れたバットの動向に注意すること。

審判規則委員会より（5）

高校野球を未来へ繋ぐ為に

野球の歴史

1845年 タウンボールが生まれる。

（～180）

1846年 「ニューヨーク・ニッカーボッカーズ」対「ニューヨーク・ナイン」の試合がおこなわれる。近代野球の始まり。

1872年 東大/開成学校・講師のホーレス・ウィルソン氏が学生に野球を教示。

（～153）

1895年 中馬庚氏が「Ball in the field」を「野球」と訳す。

（～130）

1903年 早稲田大学が慶應義塾大学に試合を申し入れ早慶戦が始まる。

（～122）

1915年 全国中等学校優勝野球大会が始まる。

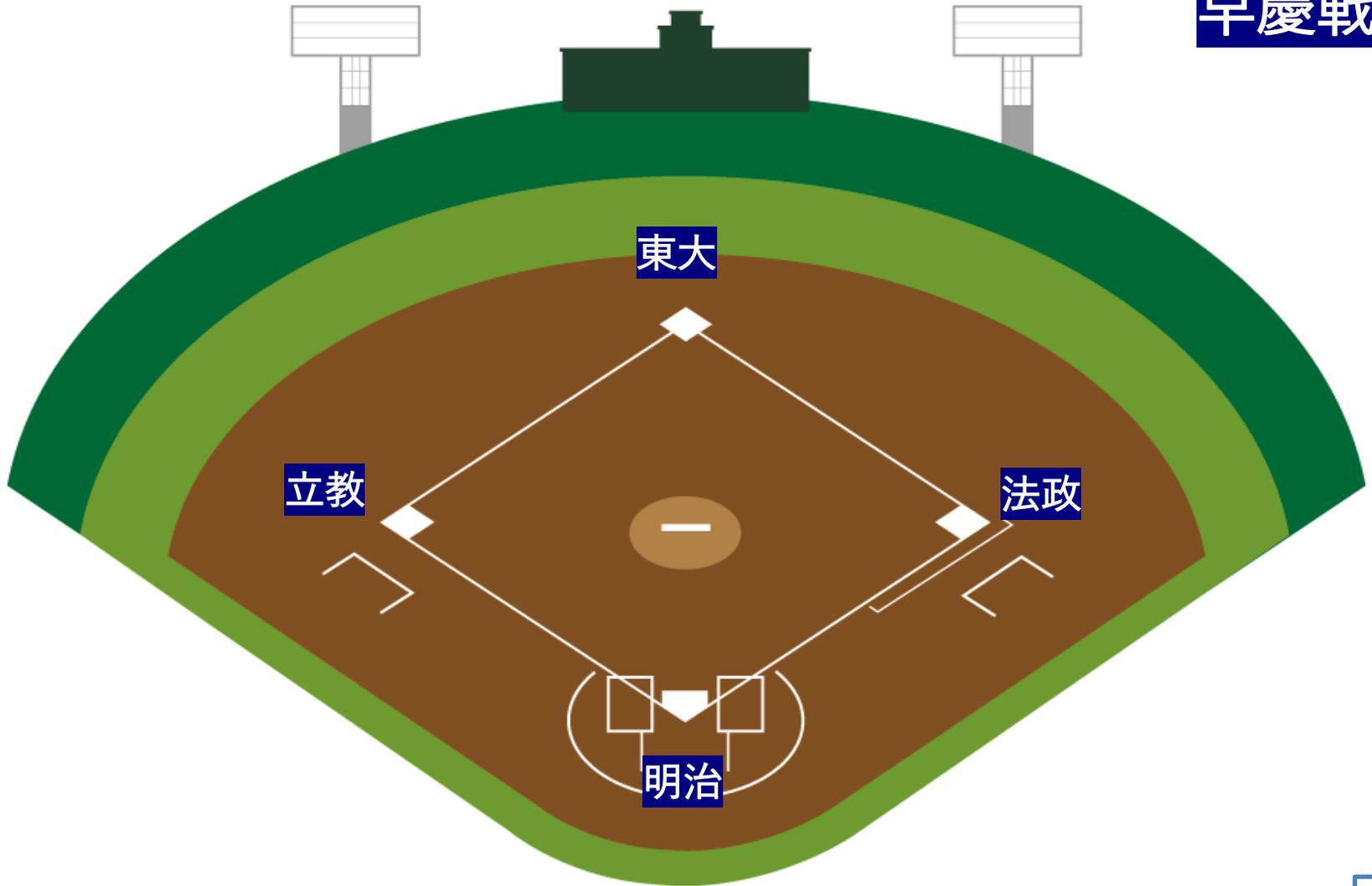
（～110）

1920年 最初のプロ野球チームである日本運動協会（芝浦協会）が設立。

（～105）

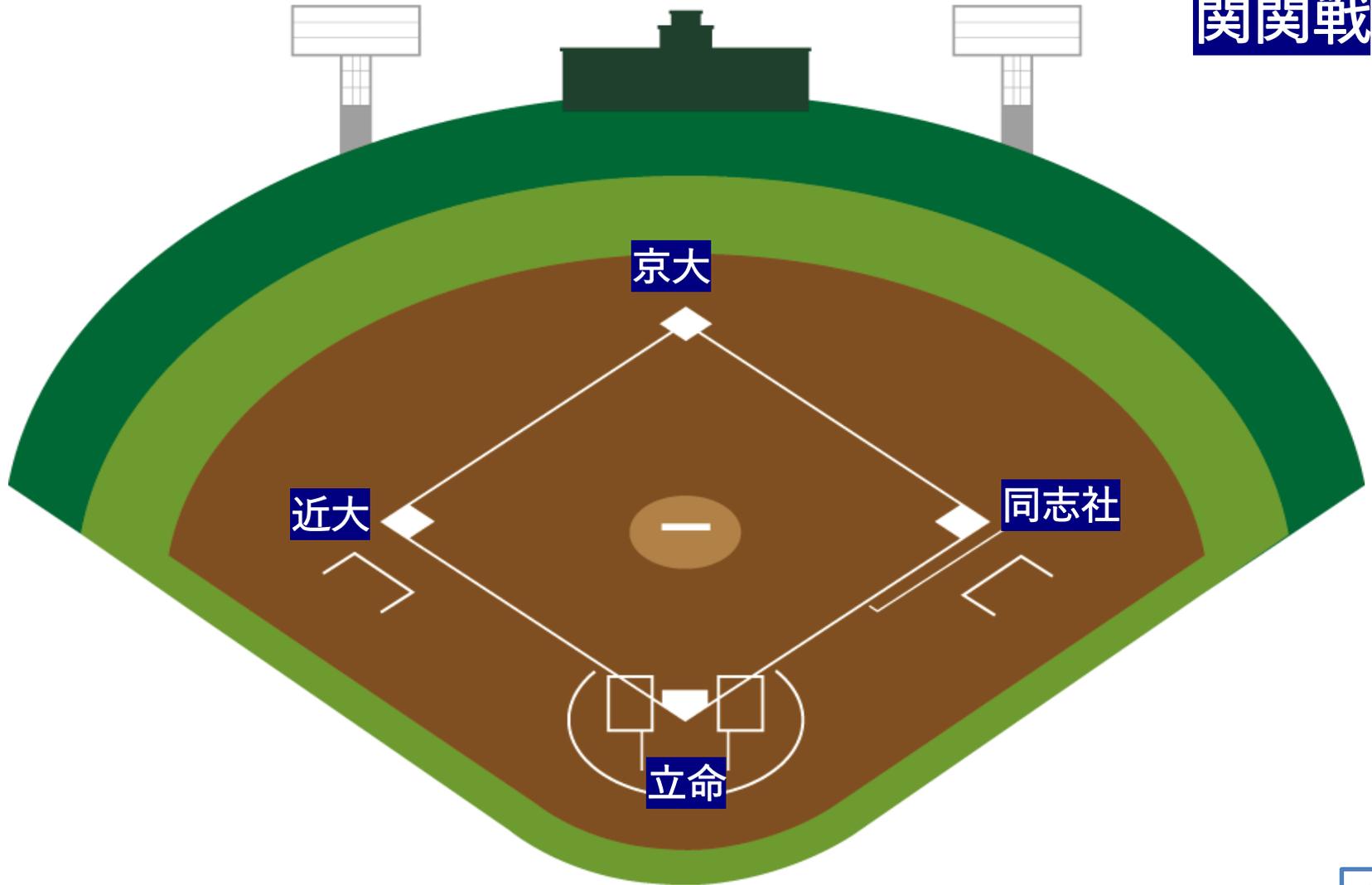
審判規則委員会より (6)

早慶戦



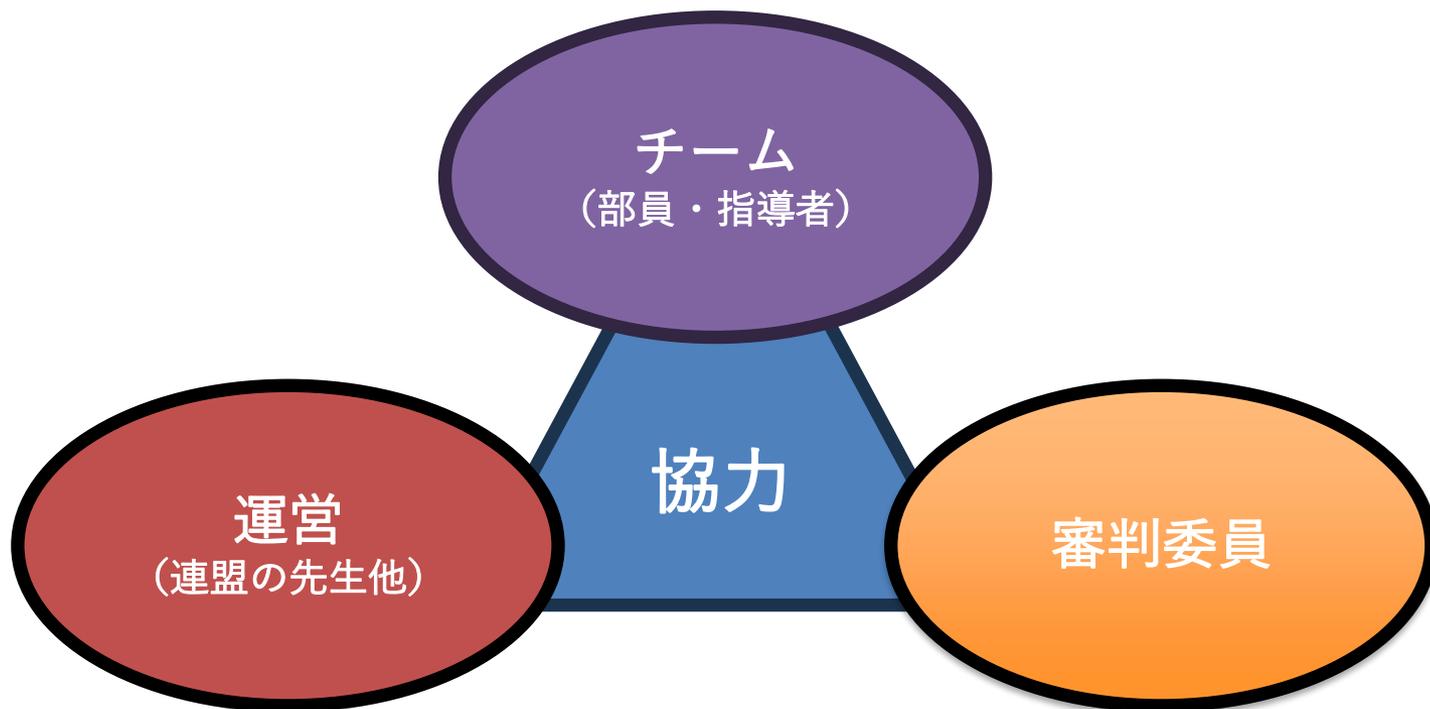
審判規則委員会より (7)

関関戦



審判規則委員会より(補足)

高校野球を未来に繋ぐ為に



是非、卒業後に野球に携わる幸せを説いて頂ければ！

試合後（１）

1. 試合終了後、ボールパーソンはヘルメットを椅子の上に置き、用具・バッグをダッグアウト前に出す。
2. 選手はアルプス席へ挨拶後、自分の荷物を迅速にまとめ、ダッグアウト前を出て退場の準備をする。監督と責任教師ノッカーは土とり、荷物整理、整列などの指導を行う。
* 土とりを行う場合は本部委員に申し出て、短時間で迅速に行うこと。（袋の商標に注意）
3. 補助員はダッグアウト前で荷物を整理し、退場準備。特に、試合中使用した飲みかけのペットボトルの片づけ（ビニール袋に入れる）を迅速に行うこと。

*** 責任教師、記録員、控え選手は試合中ダッグアウト内の整理に務める。**

試合後（２）

4. 選手はダッグアウト前でスパイクシューズのまま荷物を持って整列、グラウンドに挨拶して退場。
5. アイシングについて（不要の場合は本部委員に連絡）
アルプス席へ挨拶後、投手はダッグアウト前で10球程度控え選手とキャッチボールを行う。
* 投手ホーム寄り、控え選手はボールを持って外野寄り
キャッチボール終了後、ダッグアウト裏でアイシング
6. 退場について（スパイクシューズのまま）
退場は本部委員の指示のもと1塁側通路から、監督、取材指名選手1 or 2名（お立ち台）、主将、選手、補助員、記録員、ノッカー、責任教師の順で退場。

取材・クーリングダウン

1. インタビュー

監督、指名選手はお立ち台へ。(担当本部委員の指示あり)
残りの選手はインタビュールーム 1 (勝利校)および
控室 1 (敗戦校)で取材。

荷物を置き、脱帽で立つ。

⇒本部委員の合図で取材開始。

* 室内に水分補給用ペットボトルあり。

2. 取材時間 (テレビ局インタビュー、ペン記者、ENG含め23分)

3. 終了後、その場でクーリングダウン(理学療法士)準々決勝以降投手の肩肘検診。(担当者が迎えに来る)

4. すべて終了後、警備員の先導で主催者手配のバス待機場所まで退場。(監督・主将先頭) * トイレを済ませておく

その他（１）

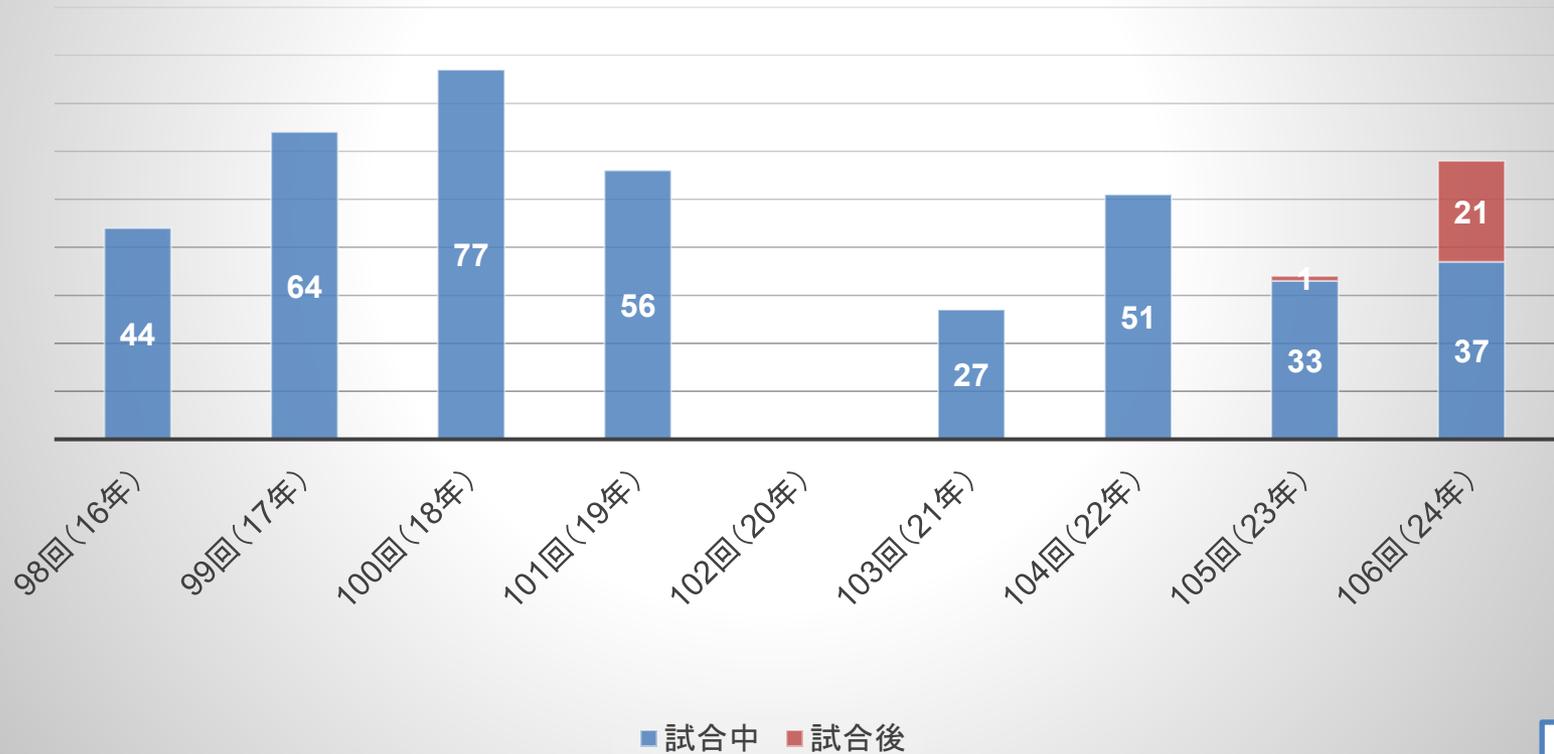
1. 理学療法士がダッグアウト裏に常駐していますので、気軽に相談してください。また、医師もネット裏に在席しています。対応が必要な場合は担当本部委員に連絡してください。
2. 室内練習場及び試合中のペットボトルは、キャップに選手の背番号を、選手以外のものには氏名等を明記し、各自水分補給を行う。
3. 守備に就く前の水分補給は、原則ファウル地域で行い、残った水は、グラウンドに捨てないこと。
4. 試合前やアルプス席挨拶後、また、退場時にスタンドやテレビカメラにポーズやアクションを起こさない。

その他（２）

5. 試合中に負傷や体調が悪い選手が出た場合は、チーム担当本部委員に連絡。状況により理学療法士又は医師が対応。
6. 試合後についても、医師の診断を希望する場合は、チーム担当本部委員に申し出る。
7. 選手が熱中症、負傷（特に首より上部）などの場合、医師の判断により**出場の可否を判断する**ことがあります。その際、**交代選手の準備**をするとともに、責任教師、又は監督はその場に立ち会うようお願いします。
8. 責任教師は、ダッグアウト内で**選手の健康状況把握**や水分補給、グラブ・帽子渡し等の**ベンチワーク及び指導**をお願いします。

参考資料（1）

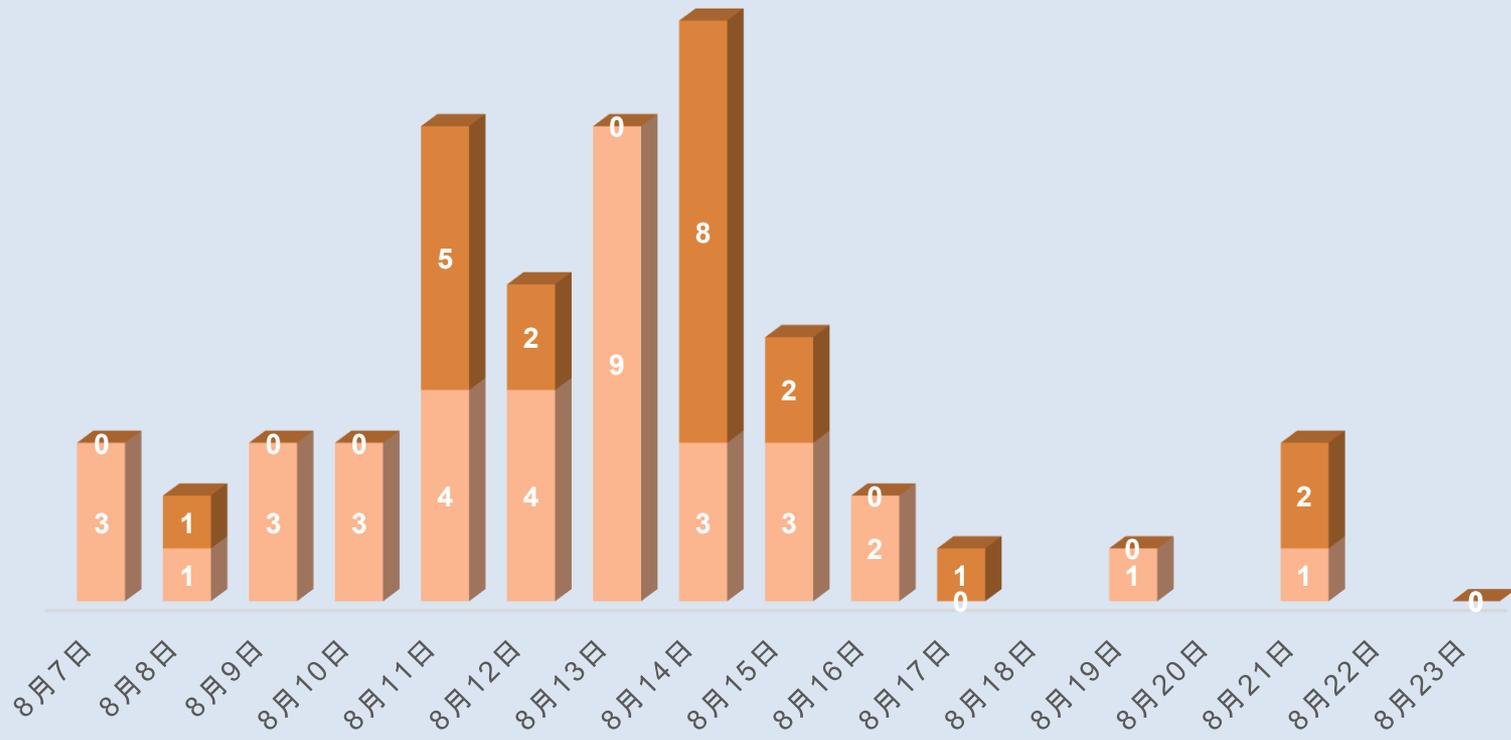
選手熱中症疑い件数



参考資料（2）

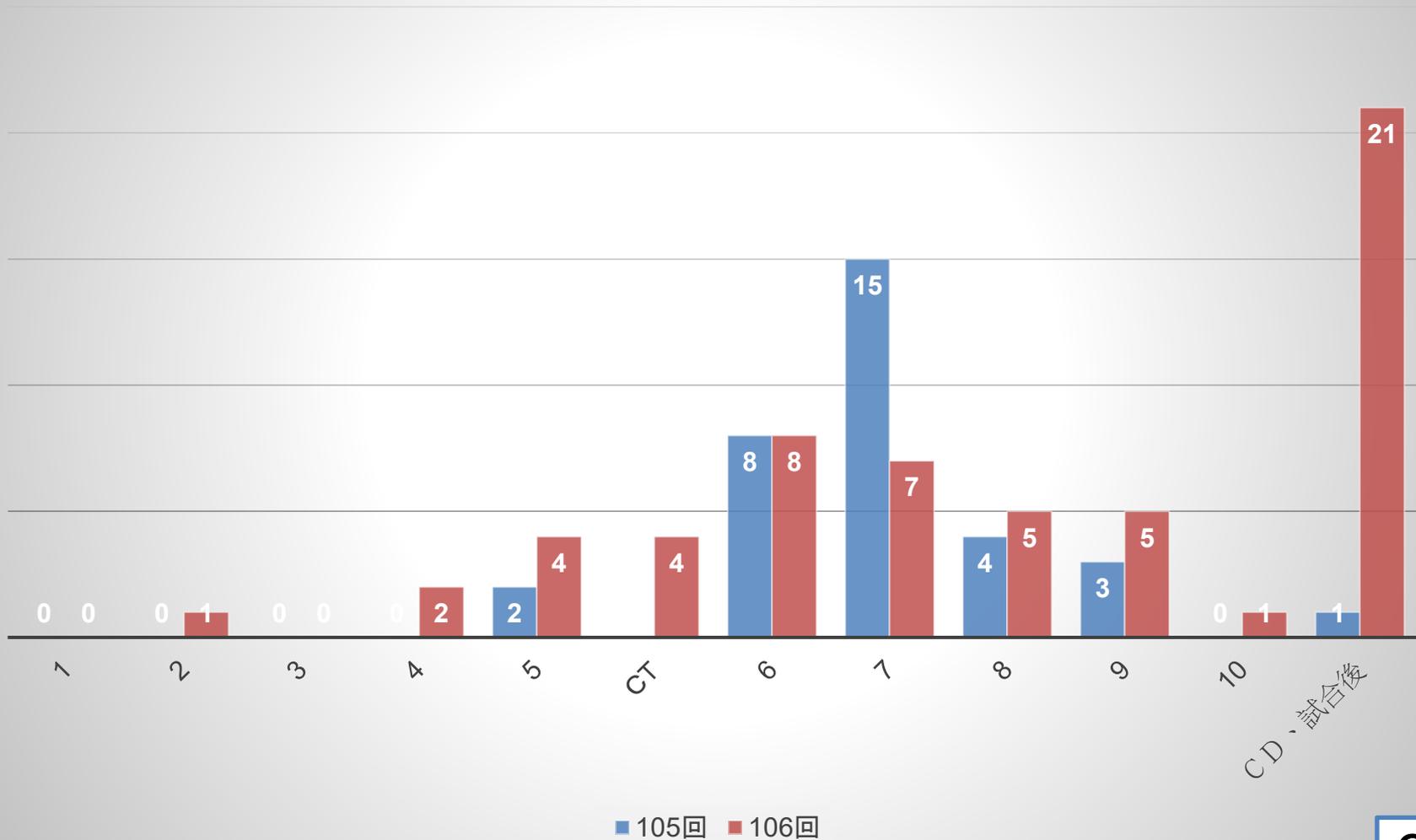
日別発生件数

■ 試合中 ■ 試合後



参考資料（3）

イニング別発生件数



最 後 に

1. 室内練習場、ダッグアウト裏には水・スポーツドリンク等が十分に用意されていますので、大量の飲料水（大きなクーラーボックス等）は持ちこまないほうが無難です。

*** 退場時、バス待機場所まで狭く急な階段の上り下りがあります。**



2. 試合中、氷嚢（クラッシュアイス）が入ったクーラーボックスをダッグアウト内に用意してあります。さらに氷が必要な場合は、ダッグアウト裏の理学療法士に伝えてください。
3. 大会中に感染者、感染が疑われる者が出た場合及び、それに伴って選手変更が必要となった場合は、事前に配布した資料に沿っての対応をお願いします。



3 F 【ファイティングスピリット、 フレンドシップ、フェアプレー】

の精神をチームで確認し、相手チームに敬意をはらうとともに、全国高等学校野球選手権大会の大会意義を尊重し、甲子園での試合に臨んでください。